

2012年 6月3日・「西日本新聞」では

## 郷土の本 放牛さんとへふり地蔵

著者は大阪府池田市生まれ、熊本市在住。文芸誌『詩と真実』などの同人で、18年前ごろに詩や小説を書き始めた。2006年の第37回九州芸術祭文学賞では「ザ・チェーンズ」という作品で熊本県地区優秀賞を受賞している。

この絵本は約300年前に熊本市と近郊地域を中心に多数の石仏を建てた江戸時代の僧・放牛ほうぎゅうの物語。熊本市内に墓が一つあるだけで、放牛の人物像は謎に包まれているが、現在も約100体の「放牛地蔵」が残っており、地元ではこよなく愛されている僧だ。

絵本は、「大男の放牛さん」が日照りに苦しむ村人の依頼に快く応じて地蔵を作り、満月の夜、まるで草刈り鎌を立てたように急な鎌研坂かまとぎざかを運び上げて坂の上の村に据える—というストーリーだ。飾り気のない絵もよく似合っている。

巻末には「放牛石仏研究会」の代表を自任する著者が自ら歩いて調査した約100体の「放牛じぞうMAP」があり、地蔵群を訪ね歩く上で役に立つ。

と紹介されています。